

カメラがとらえた“おばけ波”
～伊東沖噴火に於ける宏観異常現象～

静岡放送 川端 信正

1989年6月30日から始まった伊豆半島東方沖群発地震は、最大地震（7月9日 M5.5）後、火山性微動の発生を経て、13日手石海丘が噴火した。伊豆半島での度重なる群発地震のなかで、89年群発は有感地震の発生当初から住民の間で「これまでと違う揺れ方」との声が相次ぎ、周辺で起きる宏観異常現象に対して住民は敏感であった。また有感地震発生と共に報道陣が伊東市に詰めかけ取材ラッシュとなったことから、これら宏観異常現象が多数新聞、放送に取り上げられる状況となった。

こうしたなかで7月5日、伊東市川奈沖の海面に突然波紋が出現し、ゆっくりしたスピードで波紋がひろがり、30分以上もの長時間をかけて拡散していくのが観察された。この波紋はテレビカメラによって記録された。波紋と目撃者の証言をビデオ映像で紹介。

またその他宏観異常現象例についても報告する。